

今年の始め頃であった。声がよくでなくなり、咳は三年前よりひどくなっていた。特に卓を囲んでいとよくした。

尾崎は『昨年の夏、病院で見てもらった。太っているが、いざと言われ、やせるように一日、二キロカロリーに抑えているんだ、だからだろ。』

そんなことないだろうにと私は不思議に思った。

しかし、麻雀をするたびに顔色のよくないのは気になり心配していたが、タフネスを誇る彼なので、まさかと思つてた。

そのまさかになつてしまった。二日八日夜十時頃、自宅で吐き気をもよおし、脈拍が異常に早くなり、ついに彼は、帰らぬ人となつてしまった。

若死にした尾崎を忘れないよう、二月八日より私はタバコをやめた。今後、尾崎の為にタバコを吸うことはないであらう。

~~~~~  
**シーホッパー (松嶋)**  
 ~~~~~

過日、故松山・隈部先輩のご遺族より小澤会長を通じヨット部にご寄附をいただきました。

ヨット部では両先輩のご意志を尊重しフレッシュマン養成用として一人乗りの艇、シーホッパーを購入。

松山先輩の『松』隈部先輩の『鵬』を採り『松鵬(しょうほう)』と名付けました。

~~~~~  
**会費とご寄附のお願い!!**  
 ~~~~~

58年度会費は一万円です。ご失念された未納のOB諸氏には会報に振込用紙が同封されておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

関東インカレ二連勝ー 定期戦・慶応に圧勝!!

監督 加藤文生

春、恒例の関東大学ヨット選手権大会は、4月27日から5月5日迄、森戸海岸にて、連日熱戦が繰広げられました。

昭和九年、品川の目黒川河口沖にて、第一回大会が開催されてから、今大会が50回目になり、これに際して数々の記念行事が行なわれ、本学からも小澤会長が永年学連に尽くされた功績に依り表彰されました。

関東学連加盟校も現在49校と増え、予選を通過し、決勝に進出する事が、仲々難しくなりつつ有る時に、早稲田チームは、Bブロック予選で他校を圧倒する力強さを見せ、470級、S級共に第一位にて決勝に臨みました。

有力校である慶応470級、立教大470級は、決勝に進むこともできず無念の涙を飲みました。

決勝は、微風に悩まされながらも早稲田は好調な滑り出しを見せ、例年良きライバルとして戦っている日本大学チームを引き離して初日を首位で終る事ができました。

2日目も前日に引き続きの微風の中さすが強敵日大のセーリングは絶好調で、ついに逆転され、我がチームは第二位と落ち、最終日の一レースに賭ける事になった。

その晩の座学は熱も入り、技術論ぬきその精神論一本やりの私、そして若干OBの訓話に、部員達もやる気十分。何としてでも昨年に引き続き二連勝す

るんだの心意気、技術では日大に劣るが闘志では負けないぞと……。

最終日も引き続いで微風、僅か日大に12点の負け、出艇する選手達の顔にも熱気がこもり、さあやるぞの気合十分。

両校共、これ以上は望めない快走に次ぐ快走。

関東インカレではなく、あたかも早稲田対日大の定期戦が行われている様相、押えたり、押えられたり、歴史に残る白熱したレースを展開し、最後は僅か一点差で、日大に大逆転。

学生達は自分の持てる力を十二分に發揮し、昨年に続いで優勝。早稲田ヨット、精神力の強さを他の人学に誇示した。

~~~~~  
**早慶定期戦**  
 ~~~~~

インカレ二連勝の感も醒めやらぬ、6月4日、5日と二年間中断した早慶戦が快晴の中、三戸浜の地で復活。

今年から久しぶりに両クラス5艇づつの出走となった。

早稲田は全レース、好敵手慶応を上回り、パーフェクトで完勝。近年になく点差も大きく開き、小澤会長を始め、永元、石井、松本、浜田、安藤、杉山、舟岡、武村、清水(栄)の老若先輩諸氏も大喜び。祝勝会もかつてない盛り上りを見せ、部員の演芸大会にも熱が入り、8月25日から28日迄、地元江の島で行われる全日本に向け、誠に良いムードでスタートが切れました。



このように戦後初のインカレ二連覇と早慶戦に於る圧勝と云う偉業を達成出来ました裏には、四年間部に在籍しながら一度も舵を持ってレースに出場する事もなく卒業して行く部員、そして卒業した若手OB諸氏に改めて感謝したい。

ヨット部の将来の為にと君達の縁の下の力がなかったならば先ず関東インカレ二連覇はなかつたであらう。本当に有難度う。

小松コーチを始め、若手OBの献身的な努力にも改めて感謝いたします。部員達は必ず全日本インカレを制覇してくれる事と思ひます。